



令和4年度 くらら利用者協議会全体会議【書面議決】のお願い

会場とオンラインを併用しての開催を検討し、5月中にご案内をお送りすることを先月号でお伝えいたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も全体会議は書面議決といたします。

6月中に資料をお送りいたしますので、内容をご確認いただき、お手数ですが、書面表決書をご提出くださいますよう、よろしくお願いいたします。

くららで話そ！

アパレルブランド“サスクワッチ”と鈴木賢二
版画のコラボ

～賢二の版画が額縁を破って街に飛び出した!!～

鈴木賢二木版画×Sasquatchfabrix. (アパレルブランド)のお話をします。予約不要なので、ふらっとお越しください。

日時：6月11日(土) 14:00～15:00

場所：キョクトウとちぎ蔵の街楽習館

1階交流スペース

ゲスト：星野進さん(じょりんぼ店主)

◎開催の有無やZoomでの参加については
くららのホームページをご覧ください。

市民活動推進講座

自分らしくいられる地域をつくる
～ヤングケアラーを考えよう～

大人が担うような家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行うことにもついて当事者・支援者の視点から考えます。

日時：7月21日(木) 19:00～21:00

場所：キョクトウとちぎ蔵の街楽習館

1階大交流室 / オンライン (Zoom)

講師：仲田海人さん(那須塩原市ヤング
ケアラー協議会 立ち上げメンバー)

申込先：とちぎ市民活動推進センターくらら

くらら
スタッフの
インタビュー

祝 200号記念 特別寄稿

くららのSNS



Facebook



Twitter



くららに来て、みんなで話そ！
参加無料・予約不要・お気軽に！

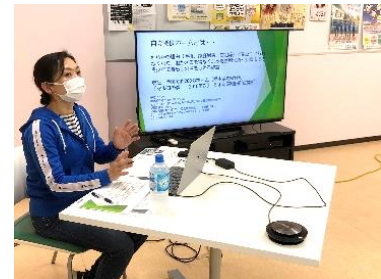
「くららで話そ！」

報告

第 305 回 4 月 26 日（火）19：00～20：30 野原知子さん（自立援助ホームマルコの家 ホーム長）

「帰れる場所」で在り続ける～自立援助ホームが大切にしている 3 つのこと～

今回は、何らかの理由で家庭にいられなくなり、働かざるを得なくなった原則 15～20 歳までの青少年たちの暮らしの場である、自立援助ホームマルコの家ホーム長の野原知子さんのお話を聞いた。最近生理の貧困がメディアでとりあげられるようになった。「生理用品が買えなくて困っている子がいる」今までは他人事のように感じていたが、野原さんのお話を聞いて身近に起きている問題であることを知った。道ですれちがう人が自分のあたりまえだと思っている生活ができていないのかもしれないということが衝撃だった。



失敗することが自己責任といわれてしまう世の中で、自立援助ホームはこどもたちが安心して一步を踏みだすためのホームになっている。身の回りのものをあるべき場所に置くようにする、個室を用意するなど、基本的なことが大切だという。「なにか失敗をしたときに、ときには一緒に頭を下げにいくこともある」失敗をしたときにフォローをしっかりするといったように、こどもたちに寄りそう。きびしいだけでなく、こどもたちが信頼できる大人がまわりにいることもこどもの成長を促すことにつながるという。

マルコの家では、自立援助ホームを退所した後もサポートを行っている。こどもたちにとって、ホームを出てからが正念場だからだ。自立援助ホームで育ったこどもたちに向けられる社会の目があたたかいものであってほしいと感じた。

メディアが個人を型にはめるような『虐待の連鎖』や『障がいは個性』などの言葉で誤ったメッセージを発信することがある。「虐待は連鎖しない」と野原さんが力強く語ることで、希望を感じるこどもたちがいる。ちいさなことでもだれかのためになることがある。地域のためになにかしたいという想いがあるとしたら、寄付などできることからはじめてみるのはどうだろうか。（文・大塚）

ブログ『マルコの家日記』でも野原さんの考え方や想いに触れることができます。こちらから→
ぜひご覧ください。



助成金情報



社会福祉法人 丸紅基金

社会福祉助成金

国民福祉の向上に資することを目的とし、社会福祉事業に対する助成を行います。

対象事業：社会福祉事業（福祉施設の運営、福祉活動など）を行う民間の団体が企画する事業

対象団体：非営利法人または 3 年以上の継続的な活動実績があり、組織的な活動を行っている団体

助成額：上限 200 万円（総額 1 億円）

応募締切：令和 4 年 6 月 30 日（木）

問合せ：丸紅基金

TEL 03-3282-7591/7592 FAX 03-3282-9541

E-mail mkikin@marubeni.com



登録団体からのお知らせ

蔵の街うたごえ実行委員会

第44回 蔵の街うたごえ喫茶

音楽に合わせて皆で楽しく歌いましょう！

日時：令和4年6月26日（日）14：00～16：00（13：30開場）

場所：栃木文化会館 大ホール（とちぎ岩下の新生姜ホール）

内容：参加者全員で歌を歌います。

参加費：500円（飲み物代・歌集代）

問合せ：蔵の街うたごえ実行委員会

TEL 0282-24-5868（岩川） 0282-24-1954（臼井）



栃木市栃木図書館・朗読を楽しむ会

朗読サロン

とっておきのおはなしをみなさまにお届けします。

日時：令和4年6月12日（日）14：00開演（13：30開場）

場所：栃木市栃木図書館 2階 視聴覚室

内容：オー・ヘンリー『魔女のパン』、向田邦子『鮎』などの朗読

参加費：無料（要申込み）

問合せ：栃木市栃木図書館 TEL 0282-22-3542



イベント情報

JICA 栃木デスク

JICA 海外協力隊 募集説明会 in とちぎ

JICA 海外協力隊を募集します。

日時：令和4年6月11日（土）14：00～16：00

場所：とちぎ国際交流センター 2階 多目的ホール

内容：JICA 海外協力隊事業概要説明、グループ座談会等

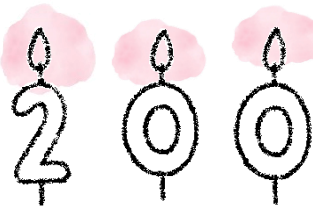
定員：40名（要申込み）

問合せ：JICA 栃木デスク TEL 028-621-0777





祝



号記念 特別寄稿



～くらは情報紙 200 号に寄せてメッセージ～

くらは情報紙は、平成 17 年（2005）から発行を続けて 18 年目となる今年 6 月に、記念すべき 200 号を発行することができました。

情報を寄せてくださる皆さま、情報紙を読んでくださる皆さま、情報紙の設置にご協力いただいている皆さまに心より感謝申し上げます。

くらは初代センター長 藤沼恭一さん

くらは情報紙「くらは」200 号おめでとうございます。開館時の記憶をたどって当初の状況をお伝えしようと思います。「とにかく公平公正、個人でも、団体でも」「明るく笑顔でお客様を迎える」「何度でも来て頂ける様に親身に相談に応じる」こんな具体性のないことしか発せられない私でした。新しい未知の仕事でお手本も少なく、自分たちで新しいルールを敷いて、その上を走るような状態でした。その後順調に加入団体・相談件数・利用者増を図れたのは、まさに当時の職員の方々の努力と経験とチームワークのお蔭でした。

そして次に飛び交ってきた言葉が「協働」でした。そして「協働まつり」が始まりました。今はそれらが更に厚みと深さを増し、若者たちも巻き込んで充実した活動を続けて頂いていることに感心と感謝と感動で一杯です。

アートウォーク 関口和男さん

栃木市のいつまでもかわらない風景が好きです。この街で生まれてから、自分なりに栃木市内でいろいろな活動に参加させてもらいました。

くらができてからは、自分が望んでいた居場所ができたので喜んでおります。市民活動の場所にいることで自分が何ができるのかをいつも考えさせられます。市民のひとりひとりの協力があれば、これからもくらの活動がしやすい場所になることを望んでおります。

NPO 法人栃木おやこ劇場 松本春美さん

くらは情報紙 200 号、おめでとうございます♪

市民の 市民による 市民のための 市民活動センターくらは。その存在感をひたむきに市民に発信してくれています。団体紹介欄は、「こんなことをしている団体があるんだ」と、いろいろな団体情報を目にする度に、市民の自由度が垣間見えて、「栃木市はいい街だな」と感じています。

これからも既存にとらわれることなく、私たちのちょっと先で市民活動の灯台に、道しるべになってくれることを期待しています。

とちぎ市民活動推進センターくらはとは

ボランティア、NPO、社会貢献活動などの市民活動を推進する拠点です。栃木市をよりよくしようと、さまざまな分野で活動している市民の皆さんの意見交換や交流、情報収集・発信の場として活用されています。



開館時間 月～土 10:00～21:00 日・祝 10:00～17:00

休館日 水曜日・年末年始

〒328-0016 栃木県栃木市入舟町 6-8 キョクトウとちぎ蔵の街楽習館内

TEL 0282-20-7131 FAX 0282-20-7132

E-mail kurara-tochigi@cc9.ne.jp

ホームページ <http://www.kurara-tochigi.org>



※くらはは、NPO 法人ハイジが栃木市の委託を受けて管理運営しています。

編集後記

今回の 4 面は 200 号記念としてくららにゆかりのあるみなさんに“200”字くらいで！と原稿をお願いしました。くらが始まったころの様子から当時のスタッフや活動しているみなさんの想いが伝わり、歴史を振り返る良い機会になったのではないのでしょうか。寄稿いただいたみなさん、ありがとうございました。（大塚）